



現代に生きる古典の知恵 「知は力なり」

私は若い時分から「古典的な知識人」を目指してきた。このような層に強烈にアピールする標語が「知は力なり」である。原語はラテン語のようだ。このラテン語というのが、いかにも古典的な響きを醸し出す。知識が力を持つという意味で、「ペンは剣より強し」ということわざもある。こちらはジャーナリストを鼓舞する作用を持つ。

知識工学の実現

私がコンピュータを使っているときに感じるのは、知識人でなくても、つまり人間でなくても、知識が力を発揮する場合があるということだ。現代のソフトウェアは実に賢くなった。英語のスペルをチェックしてくれる。文体が乱れていると忠告してくれる。数式を計算したり、方程式を解いたりしてくれる。日本語を入力している最中に国語辞典の知識を表示する。さらには翻訳ソフトも数多くの種類が市販されている。音声認識のソフトの性能向上が著しい。

このような知識を内包するソフトウェアは、以前には人工知能あるいは知識工学という分野に属していた。私自身も、その分野の研究に従事したことがある。現在では、あまり大袈裟なことを言わなくても、知識が自然にソフトウェアに組み込まれている。私も情報技術が発達した恩恵を受けて暮らしている。

知恵がビジネスだ

情報通信革命という言葉が普及してきた。これまでは、日本にはベンチャービジネスが育たないと言われてきた。その定説を打破するような動きが出ている。今後の展開は予断を許さないが、ベンチャー企業こそ、アイデアが勝負だ。まさに知恵と新しい発想が力となって新しい社会を拓いていく。

企業活動だけではない。今の日本に必要とされているのは、新しい政治の仕組みであり、学校教育の改革である。いわば社会全体に、新しい時代のビジョンを提示する知恵を待望している雰囲気がある。

このような時代背景のもとで、一番期待されているキーワードがIT(情報技術)である。ベンチャー企業の



事業の中にはIT以外の分野もあるが、情報技術を使いこなすという面では、食品関係だろうと、衣料品だろうと、分野を問わずITに密接な関係がある。ITが力だと言っても過言ではない。

知人が財産だ

インターネットの利用法を変革し、膨大な需要を生み出した技術がウェブである。自分のホームページを作るのを趣味にしている人も多い。ウェブの優れた点は、他の場所にある情報を容易に参照できることだ。

つまり文書の中にポインター(アンカー)を含むことができる。まさにクモの巣(Web)のように、地球を包む情報網である。自分で書いた情報は少量でも、他人の豊富な情報をポイントすれば価値が上がる。ポータルサイトというのは、その典型的な例だ。

実は人間社会でも、同じようなことが成り立つ。生身の人間が1人だけでは、どんなに優れた人物でも知識に限りがある。社会的に活躍している人を観察すると、他人の知識の使い方が実にうまい。

ベンチャー企業は、特定の業務に徹底している。その企業の事業が成り立つためには、他の企業との共存が必須である。私が音声認識のボードを作るとすれば、そのボードを挿入するパソコン、認識した結果を入力すべきワープロのソフト、さらには付属品のヘッドホンやマイクの企業とも連携しなくてはならない。一見すると独立独歩に見える企業でも、実は他力本願の道を歩んでいる。

人間の財産の中で一番重要なのは友人であるという。これはインターネットとITの時代になっても真理のようだ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp